

■ドイツ：RWE、ライバル E.ON とは異なる独自路線を選択

ドイツの大手エネルギー会社 RWE のテリウム社長は 2014 年 12 月 3 日、その 3 日前にライバル E.ON が発表した従来型電源部門（ガス火力、石炭火力、原子力）を将来、市場に売却し、再エネなどの事業に集中する戦略と類似した方針を 2 年前に既に検討していたと地元紙に語った。ただし、同社は検討の結果、従来型電源部門の売却はグループ全体のためにならないと判断。再エネ部門と従来型電源部門をグループ内に維持する一方、資源ビジネスを将来、手放す選択を下した。RWE は E.ON と同様、再エネ大量導入による卸電力価格の低下の影響で、石炭火力とガス火力の運用で利益を出しにくい状況に苦しんでいるが、それでも同社長は卸電力市場の設計が今と何も変わらなくても、卸電力価格が将来はピーク時には高騰すると想定し、従来型電源の将来を信じている。従来型発電事業者は、各発電所の発電量（kWh）に応じて対価が支払われる現在の卸電力市場に加えて、発電能力（kW）に対する対価が得られる容量市場の導入を望んでいるが、連邦政府は現時点では同市場の導入に前向きな見解を示していない。